平成22年度第3回（第15回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成22年11月25日（木） 午後7時～午後8時20分

2 場 所 幸町公民館 ホール

3 出席者

(1) 委 員 17名

うち代理出席3名：上村委員代理足立氏（千葉幸町東住宅自治管理組合会事務局長）、
八島委員代理田島氏（幸町第一小学校PTA副会長）、
赤田委員代理斉藤氏（幸町第二中学校PTA副会長）

欠席3名：細谷委員、外山委員、西重委員

(2) 事務局 高須課長、古館主幹、加茂主査、安井主査補、松木主任主事

(3) 傍聴者 なし

4 報告・議題等

(1) 【議題1】統合に伴う学区変更の弾力的運用について

(2) 【議題2】中学校の統合の協議時期等について

(3) 【議題3】小学校の統合について

(4) 【議題4】次回開催日時・場所について

5 会議資料等

(1) 次第・席次表

(2) 資料1 平成22年度に算出した推計による幸町地区の小・中学校の状況<前回資料>

(3) 資料2 幸町地区の通学距離シミュレーション

(4) 資料3 幸町地区の小・中学校の校舎等の状況

(5) 資料4 統合の順序・時期について

(6) 前回議事要旨

6 会議の概要

(1) 【議題1】統合に伴う学区変更の弾力的運用について

小学校統合により中学校区が変更になる幸町第二小学校に適用する通学区域の弾力的運用は、教育委員会で学区変更時に原則的に行われている対応に決定した。

(2) 【議題2】中学校の統合の協議時期等について

協議時期は、年一回、6月末から7月上旬頃に決定した。

(3) 【議題3】小学校の統合について

統合の時期と進め方及び統合校の場所について、次回に協議することとなった。

(4) 【議題4】次回開催日時・場所について

今回は平成23年1月29日（土）午前10時から正午まで、幸町公民館ホールで、幸町2丁目分科会として開催することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

<長岡会長>

お忙しい中ご出席いただき感謝する。通算15回目ということで、委員の皆さんが熱心に丁寧に子どもたちの教育環境のために議論してきた証しだろうと思う。結論に向けて話し合いを進める時期であるが、子どもたちのより良い教育環境を作ることを第一に考えて、ご協議をお願いしたい。

(2) 議題

議題1 統合に伴う学区変更の弾力的運用について

<蟹江議長>

前回の協議で「幸町第一小・第二小・第四小の統合に伴い、幸町第二小に適用される通学区域の弾力的運用は、教育委員会で学区変更時に原則的に行われている対応が望ましい」との結論となり、幸町第二小代表はこの結果を持ち帰り、その状況を本日報告いただくことになっていた。報告をお願いします。

<小池委員>

先日第二小保護者に報告した際に、報告を配布して意見を求めたが、特に質問や意見はなかった。役員としては「理解を得た」と考えている。

<蟹江議長>

第二小PTAとしては、前回の結論を受け入れるということによろしいか。

<小池委員>

はい。

<蟹江議長>

質問はあるか。(なし)

ただいまの報告でよろしいか。

<一同> (拍手をもって承認)

<蟹江議長>

幸町第二小に適用される通学区域の弾力的運用は、教育委員会で学区変更時に原則的に行われている対応、すなわち「学区変更時の在學生は申請すれば学区変更前の通学区域である中学校への通学が認められる。更に兄弟が在籍していれば弟妹もその学校への通学が認められる」とする。

議題2 中学校の統合の協議時期等について

<蟹江議長>

前回の協議で、「中学校の統合については当面行わないが状況を見守りつつ統合の協議を継続する」と決定した。時期等については、別途協議することになっていたため、本日は、中学校の統合について協議時期をどうするか決めておきたい。意見ををお願いします。

<小池委員>

保護者へ報告した際に、中学校統合についての継続審議に関して「子どもの人数が何人くらいになったら統合する、といった具体的なものがあつたらいいのでは」という意見が出た。

<蟹江議長>

規模を見定めて統合の話し合いをするということか。

<小池委員>

一年に一回、前回教育委員会の方から話があった6月頃に、協議をすることにするが、それに加えて、例えば「1クラスになってしまう」といった人数に応じて統合を考える、という目安が欲しいという意見が多かった。

<蟹江議長>

毎年6月ごろ推計が出た時点で協議するだけではなく、どの程度の規模になったら統合するといった目安も欲しい、という意見が出た。他に意見はあるか。

<布施委員>

前回、協議の継続については賛成と言ったが、今までのように統合するかどうかという内容で協議してもなかなか話が進まない面もあるように思うので、情報交換の場ということを重視して状況を話し合いながら、その中で統合が必要となれば、前向きに統合の話を進められるのではないかと考える。そういった会議にしていきたい。

<赤田委員代理齊藤氏>

第二中の赤田会長も、各学校の状況を確認するために年一回ほどの協議を継続しながら様子を見て話し合いを進めてはどうかという意見である。

<蟹江議長>

今までの意見をまとめると、協議は継続すべき、年一回程度でお互いの状況を確認しながら、その中で煮詰めていく。また、現時点では情報交換や確認の話し合いを持ったほうがいい、ということだ。統合の目安は当面は必要ないのではと思う、そういったことも話し合いの中で協議していけばいいのではないかと考えるがいかがか。

<小池委員>

了解した、その話を持ち帰り報告する。

<亀田副会長>

協議の時期について、教育委員会が6月頃と言ったことから、6月頃と考えている方もいるようだが、いつ頃に行うのか。

<蟹江議長>

それは推計が出た時点でという話があった。推計が出るのは6月頃になるのか。

<事務局>

例年、児童生徒数の将来推計が6月中には出るので、6月末から7月初めには資料を作成して示すことが出来る。あとはPTAの皆さんの都合のいい時期も考慮する必要があるだろうが、夏休みに入ると集まりづらい状況もあると思われるので、7月初め頃がいいのではないだろうか。

<布施委員>

PTAも他の各団体も役員改選を5月頃までに行うだろう。6月末から7月初めであれば、体育祭等の行事も終わる時期なので問題ない。

<赤田委員代理齊藤氏>

第二中もその時期であれば問題ない。

<蟹江議長>

推計が出た後、6月ないしは7月初めということでいかがか。

<事務局>

新たな地元代表協議会の委員の委嘱についても、役員改選が終わってからになるので、6月の初めくらいまでに完了できるだろう。6月から7月初めの開催というのは事務局としてもちょうどいい時期である。

<蟹江議長>

それでは、中学校の統合についての協議は、年に一回程度、6月から7月初めの開催とし、情報交換しながら協議していくことにしたい。

議題3 小学校の統合について

<蟹江議長>

小学校統合の時期や場所などを議論するための基礎資料として資料2～4を事務局に作成してもらった。量も多く、十分に理解を図る必要があるので、本日はこれらの資料について事務局から説明いただいた後に質疑応答までを行い、本格的な議論は次回以降としたい。では事務局に説明をお願いします。

<事務局>

資料が大量であるので、本日は説明をさせていただき、持ち帰って各母体で読み込んだ上で、次回協議をお願いしたい。

資料2は統合の時期・順序を検討する資料として用意した。先行事例等を紹介する。経験的に、準備に余裕を持って臨むには、1年半から2年程度かけることが望ましいと考えている。千葉市で初めての統合校である花島小は約10か月の準備期間であったが、現場の先生や保護者の方々に「春の運動会をやっているときに、これが最後になるとは思わなかった」とお叱りを受けた。また、統合後の聞き取り調査でも、準備期間が短かった、という意見が多かった。これが第一次学校適正配置の反省点としてあったため、今回の真砂地区と高洲地域では余裕を持って統合時期を決めた。こういったことを参考にして、幸町地区の統合を考えていただきたい。

今回は3小統合となるため、資料2の裏面で、統合を考える上でもう一つのファクターである「統合の進め方」を示した。具体的に考えられる進め方として「3校同時に統合する」「2校を先に統合し、残り1校は後から統合する」という2つのパターンを示した。(遅刻佐藤委員着) 仮校舎のキャパシティ等を考えながら検討する必要がある。

資料3は主に統合場所を協議するうえでの資料。各校を統合校の校舎にした場合、他2校の学区の一番端(遠い場所)から統合校までどの程度の通学距離(道のり)があるかを示した。あくまで目安であり、一番遠くてこの程度というイメージである。

資料4は幸町地区の小中学校の校舎等の状況である。耐震補強のIs値が0.6未満のものは耐震補強が必要であり、市として補強を進めている。教室数は普通教室を指しており、図書室等の特別教室は別である。

<蟹江議長>

ただいまの説明について質問はあるか。

<上村委員代理足立氏>

Is値が0.01違うと、どの程度違ってくるのか。

<事務局>

専門家ではないので細かいことまでは分かり兼ねるが、Is値が0.6を超えると震度6

強の地震でも倒壊または崩壊の危険が少ない。0.3未満であると震度6強の地震に対して倒壊または倒壊の危険度が高い、と聞いている。

<上村委員代理足立氏>

幸町第四小の普通教室棟のIs値が0.59で耐震補強が必要となっているが、0.6との差が0.01である。その0.01の差がどの程度なのかと思ひ質問した。

<蟹江議長>

また機会があれば調べていただきたい。

<八島委員代理田島氏>

第四小を統合校にした場合、3校が一緒になると、教室数が学級数に満たない。このことは、どう考えればいいのか。

<事務局>

3校をいろいろな角度から見ていく中で、より適切な統合校はどこか、と考えていただくしかないだろう。

<八島委員代理田島氏>

距離的なものを持ち帰って話をするようになると思うが、それ以外の教室数や特別支援学級などについては、どう説明すればいいのだろうか。

<事務局>

統合場所を考えるためには、まず3校を平等に統合校の候補として考えて、通学距離や校舎の形状、保有教室数など、さまざまな要素から慎重に検証して、最終的に決定することが必要だろう。先行事例でも、通学距離・教室数・耐震補強の状態などといった単一の要素だけで決定しているわけではない。決定するに当たっては、学校見学会を実施したので、この地区でも企画したいと考えている。実際に目で見て感じることもあろうし、いろいろな側面から検討して、ベストは無理でも、ベターな決定をしていくことになるのではないかと考える。

<上村委員代理足立氏>

進め方のパターンとして、事務局が提示したパターン1と2の他に、もう一つ考えられると思う。幸町団地が出来た時には中央のメインストリートで区切って第一小と第二小に分かれていたわけだが、一度その形に戻して、第四小を作り直すパターンである。通学距離が長くなると通学時のリスクが高まるが、統合校を第四小の位置にすると通学距離が一番短いので、第四小を増築するのがいいのではないか。加えて、もし第四小を手放した場合、都市再生機構の動きがどうなるか、見えない。売却して開発されると統合どころではなくなる。まず第四小の児童を第一小と第二小に分けて、空いた第四小校舎を増築・改修した後に、第四小を統合校にすればいいのではないか。その後の第一小と第二小については、避難所として残したり、将来的に中学校を統合したときに第二小を建て直して中学校にしたりすることが考えられるだろう。

<亀田副会長>

今の意見では第四小の児童が2校に分かれることになるが、第四小さんは納得できるかどうか。

<木村委員>

納得は出来ないと思う。大事なものは、学年の人数が少ないからこそ、分けないで欲しいということだ。

<亀田副会長>

短い期間であっても第四小を分けることになるので、足立さんの案は難しいのではないかと。第四小が第一小か第二小に移って、第四小を改修することが現実的だろう。第四小は人数が少ないので、なるべく早く一緒になりたいということがあるのならば、早い時期に、とりあえずどちらかと一緒に、というのがパターン1だろう。

<事務局>

まずは先入観を捨てて、全ての小学校を統合場所の候補として平等に検討していただきたい。通学距離も含め、あらゆる側面から見て、適切な統合校・統合パターンを考えていただきたい。

<蟹江議長>

この資料は、素材が無ければ議論が進まないで、事務局に具体的な現状を提供してもらったものである。委員の皆さんは一旦持ち帰って、各団体の意見を吸い上げる必要があるだろうから、今ここで即議論に入るわけにはいかないと考える。委員の皆さんに各団体の意見を取りまとめていただいて、次回以降にその意見を持ち寄って協議をしたい。

<巖倉委員>

確認だが、統合校の校舎には今ある小学校3校のいずれかを使う、なおかつ、大規模改修をしてもらえる、ということ的前提を考えればいいのか。

<蟹江議長>

パターン1・2とも大規模改修ということになっているので、そういうことだ。

<木村委員>

今までの統合事例では色々な見地から検討したということだったので、花島小や、真砂地区・高洲地区ではどの点を重視して統合校を決めたのかを、次回に示してもらいたい。それが分かると参考になる。

<蟹江議長>

事務局には参考資料の作成をお願いする。

本日の協議はここまでとする。次回からしばらくの間「幸町2丁目分科会」を開催し、小学校の統合の具体的な時期や場所等について協議することにしたい。「幸町2丁目分科会」のメンバーを確認するが、本協議会の会長・副会長、第一・二・四小及び第一中PTA会長、第一・二・四小区内の自治会代表、第一・二・四小及び第一中の学校評議員代表とする。なお、分科会の協議がまとまった後、改めて全体会を開催し、幸町地区全体としての合意を図りたいと考えるが、いかがか。

<一同>（異議なし）

議題4 次回開催日時・場所について

<蟹江議長>

次回は1月29日、土曜日、10時から正午まで、会場は本日と同じ幸町公民館ホールで、幸町2丁目分科会として開催することとしたいが、よろしいか。

<一同>（異議なし）

<蟹江議長>

委員の皆様は本日の資料をもとに大いに議論したうえで、各団体の意見を持ち寄っていただきたい。この会は傍聴可能なので各団体の皆さんに開催日時の連絡をお願いしたい。

これにて議事をすべて終了する。ご協力感謝する。

(3) 諸連絡

<事務局>

○議事要旨について、後日委員の皆さんには案を送付する。訂正等あったら期限までに返送をお願いしたい。返送がない場合は変更なしとみなす。

○欠席の場合は事前に、できるだけ前日までに電話等でご連絡いただきたい。代理出席の場合も事前にどのような立場の方が代理出席するのか、たとえば「会長の〇〇の代理で副会長の□□が出席する」ということをお願いする。

○次回からしばらくは幸町2丁目分科会として開催することとなったが、資料と議事要旨については、幸町1丁目に関係する委員の皆様へも送付し、情報は途切れないようにしていく。

(4) 閉会

<長岡会長>

今日は非常に重要なところに一步踏み出したと思う。事務局から大事な検討資料が提示された。統合校をどこにするかということもそれぞれよく読んで、じっくり話し合っ、より良い方向に決めていくことが大切だろう。未来を担う子どもたちのために、また、URの再開発の動向も見つつ地区全体をどうするかという立場で、今後どうするかを考えていただきたい。次回もよろしく願います。